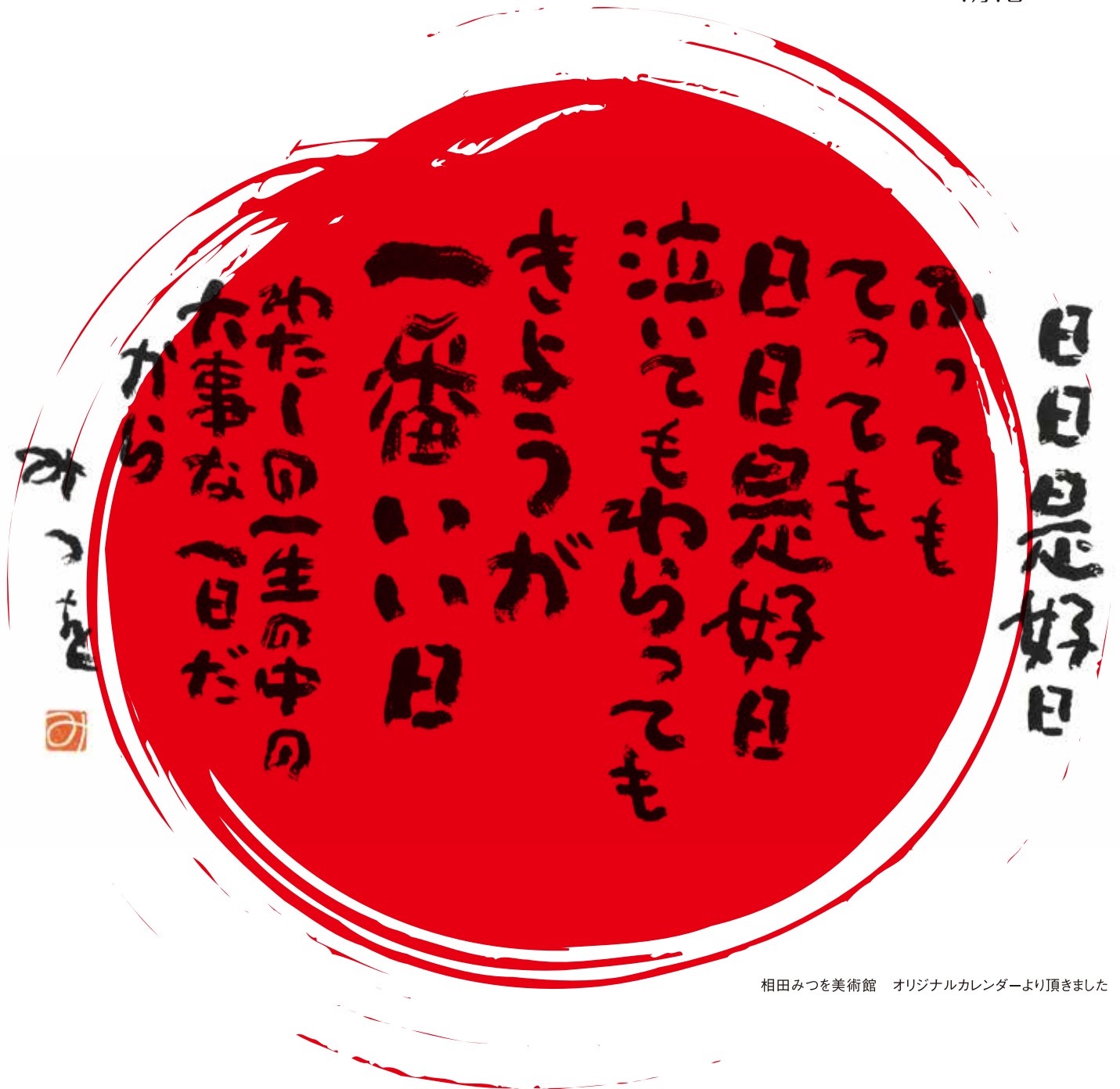


むゆげ

97号
No.1097

2012(平成24)年
1月1日



相田みつを美術館 オリジナルカレンダーより頂きました

発行者:高槻市氷室町2-19-30

浄土真宗本願寺派

萬徳寺

電話(072)696-0666

FAX(072)692-0769

親鸞聖人
750回大遠忌



新法 春話



何もかも われ一人のためなりき 今日一日のいのち尊し

ああ／今日も新しいいのちをいただいた！
有難いことです。

皆さま、あけましておめでとーございませす。

新しい年の元旦、まずはお家のご仏前にお光
をあげ、お香をたき、お家族揃って阿弥陀如
来さまにお礼のお勤めをいたしましょう。

—— 今年も、阿弥陀さまのお慈悲の中で

新年を迎える事ができました ——

お家族の皆さまに、どうぞお念仏ご相続し
て下さいませ。

忙しいということとは、 怠けてる証拠です

忙 しい事は結構なことです。特にお商
売している人にとっては暇では困る

わけです。しかしよく考えてみると、「忙」
という字は、立身偏りっしんぺんは心ですし、立身偏を下
にもつてくると「忘」という字になるのです。

「忙しい」という語は、「忘れる」と親戚と
いつてよいでしょう。「忙しい、忙しい」と言つて、
われを忘れ、気がついたら「こんな年になつて

いた。わたしの人生は一体何であつたのか」
と、虚むなしさが襲おそってくることになつてしま
います。人生を一生懸命真面目まじめに生きてきた
ことを否定するのではありません。ただ時
間に流され、自身の生きる意味を問うこと
をしなかつたことに対して、先人は、それは
怠なけている証拠だと言われるのです。

わたしがご門徒さまのお家にお参りに行
きますと、以前は「ご院主さん、今日はひま
を欠かいて、ようこそ」と迎えてくださいまし
た。ところが、今日では、ほとんどの人が「今
日はお忙しい中、ようこそ」と迎えてくださ
います。忙しく走り回っている住職もご門徒
さんも、結局大切なものを見失つているのか
もしれません。

萬徳寺平成二十四年度(二〇二二年)
年間仏事行事予定表

- 本山 〓正当法要仏壯団体参拝 一月九日(月)
仏婦団体参拝 一月十三日(金)
- 門徒冥加金 寺勘定日 一月二十九日(日)
- 仏教婦人会常例法座 二月、九月
- 永代経法座 四月十四日(土)
十五日(日)
- 〈講師 常見寺・利井唯明師〉
- 人生講座 六月二十四日(日)
- 〈講師 ギター法話・小泉信了師〉
- お経の練習会 八月下旬
- 報恩講法座 十月十日(土)
十日(日)
- 〈講師 武田達城師〉
- 除夜会 十二月三十一日(月)

平成二十四年度(二〇二二年)年回表

一周忌	平成二十三年	往生
三回忌	平成二十二年	往生
七回忌	平成十八年	往生
十三回忌	平成十二年	往生
十七回忌	平成八年	往生
二十五回忌	昭和六十三年	往生
三十三回忌	昭和五十五年	往生
五十回忌	昭和三十八年	往生

※亡き方を通して、今私たちは頑張つて生きていますよ、とのお心をお忘れにならないようにお勤めして下さい。お家のご都合で、祥月命日が過ぎてもよろしいです。

み仏を よぶ我が声は
み仏の 我をよびます み声なりけり

一日一度はお念仏申し上げましょう。

我が声から出る南無阿弥陀仏は、阿弥陀さまの喚び声ですよ。



11月16日最後の法要にお参りました



11月12日、13日の報恩講法要には大勢の門信徒の方々がお参り下さいました



住職の ひとり言



◆二〇二二年、あけましておめでとうございます。今年も阿弥陀さまの慈光に照らされて、明るく、いただきたいのちに感謝する人生を歩ませていただきましょう。

◆昨年、三月十一日、東日本大震災が発生して早十ヶ月が立ちました。地震、津波続いて原発事故は、無数の人々の命を奪い、生活を破壊し、原発事故は地域を不毛にして、今もつて多くの人々に放射能汚染の不安を与えつづけています。人智のはからは、結局、五濁悪世の世をつくつてしまいました。稚拙で強引で功利的なエネルギー政策は、社会的に弱い者、貧しい者につけを回します。

◆浄土和讃に『清浄光明ならびなし／遇斯光のゆえなれば／一切の業繋ものぞこりぬ／畢竟依を帰命せよ』という和讃があります。親鸞聖人は「清浄光明ならびなし」と讃えられますが、しかしその清浄な阿弥陀さまの光は、今のこの暗い世の中では限りなく遠くに感じられます。「一切の業繋ものぞこりぬ」という、光明によつてすべての悪業から解放されるというよろこびも遠くに思えてなりません。弱い者、貧しい者が犠牲となる負の連鎖を断ち切ることは不可能にみえます。それは、お前が阿弥陀さまに遇いぬることがない、仏法に遇いてないか

らだと言われればそのとおりです。しかし、今まで人智にだけに頼つて生きてきたこの凡夫のわが身が、いつか遇斯光に遇えることを願う身とようやく気づかせていただきました。和讃は「畢竟依(究極のよりどころとする阿弥陀仏)を帰命せよ」と結ばれています。今の我が身とは、遠く隔たつた言葉だこそ、味わい、また向かい合つていかなばなりません。

個人情報により非表示にさせていただきます。

尊い、いのちが阿弥陀

陀さまのお側に還つていかれたのです。お家族の方々の悲しみ、寂しさの中から、お手を合わし、お念仏申し上げる尊い縁に遇つて下さい。「亡き人をおもう私は 亡き人におもわれて 生かされている」。亡き人は仏となつて、お念仏申す人生を歩んでくれよとのご催促とお味わいさせていただきます。ナンマンダブツ ナンマンダブツ

◆昨年、十一月十二日、十三日に、報恩講法座をにぎにぎしく勤めさせていただきますました。門信徒の皆さま、遠近各地よりお参りくださいました。本当に有り難うございました。一日目は、在家ご出身のご住職である植田豊先生が、ご出講いただきましたが、親鸞聖人み教えを、やさしく説いてくださいました。本山では、一月九日から十六日まで御正當法要をお勤めです。私たちもご縁をいただいております。